第五回　校長室　エッセイ・チャレンジ

第五回のお題

早いもので、令和八年度も半分の折り返し地点を過ぎ、後期の学校生活が始まりました。始業式でもお話ししましたが、中学校生活はたったの三年間です。「終わり（ゴール）を見て、今やるべきことを考えてやる」というのが、とても大切な習慣です。皆さん全員の前期の反省を読ませてもらいました。これまでの自分をふりかえり、これからの行動を選択・決定するのは自分自身です。後期の皆さん一人ひとりの頑張りに期待しています。ぜひ、このエッセイチャレンジにも取り組んでみてください。

第五回目のお題は「空気」です。空気、と言っても「空気を読む」というときの「空気」、つまりその場の「雰囲気」のことです。日本では、「空気を読む」のはとても大切なことと認識されてきました。別の言葉では、「同調圧力」とも言えます。最近では「空気を読むな！」という考え方もあるようです。

朝日新聞の投書欄に、ちょうどおもしろい記事がありました。皆さんと同じ世代の人の投書もありますので、まずはそれを読んでみてください。そして、自分の経験や考えを、自分のことばで書いてみてください。

【お願い】

作品には、できれば「タイトル」と、自分の学年・クラス・氏名をつけてください。

校長　川中子登志雄

【エッセイ】essay　随筆

エッセイ（随筆）とは、筆者の体験、感情、考えを自由な形式で綴った文章です。日常の気づきや主観的な視点を中心に描かれ、読者に寄り添い、時には笑いや共感、新しい視点をもたらす魅力があります。日記とは異なり、読者を意識して背景や心情を掘り下げて面が重要です。

〈特徴と魅力〉

自由なスタイル：決まった形式がなく、文体や構成は筆者に委ねられています。

主観的な描写：客観的事実の羅列ではなく、事実をどう感じ、どう受け止めたかという内

共感と視点：他人の視点や人生に触れることで、自身の価値観が揺さぶられるような体験ができます。

気軽に読める：日常の一コマを切り取った内容が多く、リラックスして楽しめます。

〈書き方のポイント〉

テーマの絞り込み：「楽しい」「良かった」だけでなく、なぜそう感じたのか、具体的な背景や心の動きを描写します。

読者を意識する：自分の世界に閉じこもらず、読者が共感できる要素を意識します。

出典「丸善ジュンク堂書店ネットストア」「日本福祉大学エッセイコンテスト」